

コンクール事業

第36回コンペティション実施事務局主催

入賞者記念コンサート

全国各地で続々開催

11月～1月に開催された

実施事務局主催入賞者記念コンサートは、
全国で26箇所、各地の様子をお届けします。

歴史が訪ぐコンサート

諏訪支部

2012年12月9日

諏訪市駅前市民会館

「出演者に思い出を」という事務局の思いが伝わった、諏訪支部の入賞者記念コンサート。今年で29回目の開催となりました。決勝大会の入賞者5名を毎年必ず招待しており、ピティナ入賞者の層の厚さを伝えている歴史あるコンサートです。華やかな開催を初回から支えてきた事務局の茅野雅英さんによると、入賞者記念コンサート出演を目標にするコンペ参加者も多いとのこと。「最近ではケーブルテレビ局に就職した以前の出演者が取材に来てくれるようになり、コンサートの様子は正月特別番組として放送されています。また賞状

協力でお世話になつていて地元紙長野日報も、コンペ・コンサートのニュースを頻りに取り上げてくれます。こういった地元企業の協力が開催の大きな支えですね。そしてなにより指導者の先生方のコンサートへ向けた情熱は素晴らしいものがあります。地元ではクオリティ高い「ピティナのコンサート」として定着し、親しまれているとのこと。長年の歴史の中で結ばれた縁が、いつそこの盛り上がりにつながっています。



今年のゲスト出演者

江夏真理奈さん (特級銀賞)
北 桜子さん (D級銀賞)
平野新枝さん (C級金賞)
佐藤花音さん (B級金賞)
井上アンリさん (A1級金賞)



田中美帆さん(学生会員、高1)

たなかみほは2012年度コンペティション
E級金賞受賞者。

諏訪支部の入賞者記念コンサート出演は、今年で6回目になります。コンサートはお客様に楽しんでもらえるよう、曲が知っている曲を選びます。今回はショパンのバラード第3番に挑戦。まだまだ未完成だけれど、最後まで魂を込めて弾きました。

それぞれの思いを胸に

大阪支部

西日本クラシックミュージック受賞者記念コンサート

2013年1月13日/川西みつなかホール

大阪ではクラシック部門のコンサートを開催。様々な背景を持つ出演者が、オリジナリティあふれる演奏で観客を魅了しました。

るようになり、ジストニアによって自分の音楽を見つめ直す機会を与えられたのだと思っています。

今回のコンサートでは吉松隆とスクリャービンの左手のための作品を演奏しました。自分にとっても発見が多く、お客様には「初めて聴いたけど良い曲だった」「ドラマが感じられた」と喜んでもらうことができました。両手で弾けてしまうと、左手だけの作品には目がいかず、左手の重要性にはなかなか気づかないものです。まだまだ勉強を始めたばかりですが、左手のための作品に取り組んでいる人は少ないですし、左手演奏をする者の一人として、左手の持つ豊かな表現力や無限の可能性を伝え続けていく責任を感じています。



経典ピアニソンの演奏と

左手の可能性を伝えたい

内藤みゆきさん(支持会員)

なとうみゆきは岡山にて英語スクールを主宰するかわら、二人のお子さんと共にコンペ・ステップに参加。2012年度コンペティション目黒カントリー決勝大会入賞。コンペ、今回の受賞者コンサートとも左手のための作品を演奏。



右手にジストニアの症状が出始めたのは3年前。無理して練習した時期もありましたが、「左手がある、当

面は左手一本でやっぴいこう」と決めました。リハビリを続ける中で感じたのは、「病気は自分でしか治せない」ということ。何事も頑張りが過ぎていた自分と向き合い、今の自分をそのまま受け入れることを病気が教えてくれました。また支えてくれた家族・恩師・友人への感謝はそれまでの気軽な「ありがとう」とは次元が違い、その想いを音楽に素直に表現できるようになったのは大きな変化です。最近は気持ちが解放されたからか、両手演奏にも少しずつ取り組め